World Vision News No.186

2016年11月 ワールド・ビジョン ニュース

World Vision
この子を救う。未来を救う。

特集

「子どもを想う力」をつないで未来へ

熊本地震活動レポート
皆さまの募金が、16,400人を笑顔に

特集「子どもを想う力」をつないで未来へ

CHRISTMAS CAMPAIGN

「子どもを想う力」キャンペーン
クリスマスまでに、3000人の子どもに、チャイルド・スポンサーを届けたい！

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動は、皆さまの「子どもを想う力」に支えられ、厳しい環境に生きる世界の子どもたちの未来を拓いています。さらに多くの方々の「子どもを想う力」をつなげ、もっと多くの子どもたちに支援を届けるため、11 月 1 日（火）～ 12 月 28 日（水）まで、「子どもを想う力」クリスマスキャンペーンを実施します。いろいろな参加方法がありますので、ぜひ応援をお願いします！

あなたの「子どもを想う力」を伝える

あなたが支援を始めたきっかけ、遠くにいるチャイルドを想う気持ち、難民の子どもがニュースで報じられる時に感じること等を、Facebook 、Twitter、Instagram、Google+ で「# 子どもを想う力」をつけて発信してください。コメントは、ワールド・ビジョン・ジャパンのホームページ等でも紹介させていただきます。

#子どもを想う力

「子どもを想う力。くつ下の力。」に参加する

サンタクロースのように、くつ下に「子どもを想う力」をこめてプレゼントを届けたい。そんな願いで実施するイベント等にぜひご参加ください！

ワールド・ビジョン　くつ下

募金で「子どもを想う力」を届ける

安全な水が手に入らない人は、世界中に6億６３００万人。多くの５歳未満の子どもたちが、安全な水が得られず下痢等で命を落とします。このような子どもたちを守るために募金にご協力ください。

ワールド・ビジョン　水と食糧のため

チャイルドを増やして支援する

クリスマスまでに 3000 人のチャイルド・スポンサーを募集しています。もう一人分のご支援を追加してくださる方、または新しくチャイルド・スポンサーになってくださる方のご連絡をお待ちしています！

知っていますか？ くつ下に込められた「子どもを想う力」

昔、ある父親が、貧しさのあまり 3 人の愛娘をやむなく身売りに出そうとしていました。
すると、突然、窓から金貨が投げ入れられ、偶然にも暖炉に干していたくつ下に「ストン」！
3 人の娘は結婚して幸せに暮らすことができました。そこから、クリスマスには、素敵なプレゼントを入れてもらうのを期待してくつ下を飾るようになったそうです。コッソリ金貨を投げ入れたのは、サンタクロースのモデルとされる聖ニコラスと言われています。
「子どもを想う力」は、時代や国境を越えてつながり、未来を変えていくのです。

チャイルド・スポンサーシップ、募金のお申込みはこちら

電話でのお申込み　0120-465-009
WEB からのお申込み　ワールド・ビジョン

シリア難民の子どもたちとジェスチャーでコミュニケーションをはかる事務局長

事務局長の「子どもを想う力」

世界に思いをはせて VOL.6　事務局長　片山信彦

近年、テロや紛争など、防ぐことが可能な人為的な災害が増えています。軍事費に費やされる膨大な資金を貧困や格差解消のために使うなら、多くの命を救うことができるのに、と思う事があります。また、その結果、世界には難民が何千万人いる、とか、何百万人のシリア難民がシリアから逃れていると聞きますが、それはどこか他人事と感じることがあります。7 月、ヨルダンで出会った難民の家族からその長くて苦しい歩みをお聞きする中で、それぞれに歴史があり、愛する家族がある、命ある一人ひとりだということに改めて気付かされました。支援活動を行っている中で、知らず知らずのうちに数や人種でまとめて見て、そこにいる「一人」に思いをはせない恐ろしさを感じました。単に “支援事業” を実施するのでなく、一人ひとりの「想い」を受け止めながら活動することの大切さを再確認しています。
ワールド・ビジョンの創始者、ボブ・ピアスも、戦後の中国で出会った「一人の子どもへの想い」から団体を創設しました。まずは、「一人」からなのかもしれません。今年もクリスマスキャンペーンが始まります。皆さまの応援をよろしくお願いいたします！

World Vision News No.186　2016年 11月発行　ワールド・ビジョン ニュース
特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2ハーモニータワー 3F　TEL 03-5334-5351(平日9:30～17 :00) FAX 03-5334-5359
dservice@worldvision.or.jp　www.worldvision.jp

World Vision
この子を救う。未来を救う。

「子どもを想う力」をつないで未来へ

今、世界に生きる子どもは、22 億人
そのうち、児童労働を強いられている子どもは、1 億 6,800 万人
5 歳の誕生日を迎えられずに命を落とす子どもは、590 万人
教育の機会がない子どもは、5,700 万人にのぼります

カンボジアの漁村で生まれ育ったセニャンちゃん、10 歳
まだ、学校を見たことがありません

もしもこの子が、学校に行けたら？
もしもこの子が、自分だったら？

想いの持ち方を少し変えると
遠くて無関係だった国が
「あの子がいる国」になります

一人ひとりの「子どもを想う力」をつなぐことで
未来は変わっていきます

特集

「子どもを想う力」をつなぐチャイルド・スポンサーシップ

想いだけでは、夢の入口にも立てない子どもたちの現実～カンボジアから～

「幸せに育ってほしい」子どもを想う力に、国境や貧富の差はありません。
しかし、チャイルド・スポンサーシップの支援対象となる子どもたちの多くは、家族に愛情を注がれながらも、厳しい貧困のため、栄養ある食事を食べられず、学校で学び続けることも難しい状況に生きています。

わたしは何もいらない

漁村で暮らすセニャンちゃんは、2 歳のときにお父さんをマラリアで亡くしました。それ以来、毎日お母さんと一緒に漁に出ています。船からはじきとばされて肋骨を折ったこともあります。それでも、お母さんを支えたい一心で、舟に乗ります。空腹でも、何も言わずに我慢します。お母さんを悲しませたくないからです。お母さんは、そんなセニャンちゃんに対して、願っています。「わたしは何もいらない。食べなくたっていい。ただ、セニャンに教育を受けさせてやりたい」

世界の子どもの未来のために
セニャンちゃん、パニャくん、キムヤンちゃんの毎日を動画で見る

セニャンちゃん　パニャくん、キムヤンちゃん

もう一度、学校に通わせてあげたい

漁村で生きるパニャくんは、13 歳とは思えない小さな身体で、毎朝 4 時から日没まで働いています。お母さんが病気になったときに借りた治療費を返すためです。パニャくんは、勉強が大好きでしたが、今は、8 人の大家族を支えるために、働かざるを得ません。お母さんは語ります。「パニャは、学校に行きたいはずです。でも、文句を言わずに、毎日漁に出かけます。もう一度、学校に通わせてあげたい」

私が死んだら、あの子はひとりぼっち

農村で暮らすキムヤンちゃんは、おばあちゃんと 2 人暮らし。小さな畑だけを頼りにわずかなお金で暮らしています。それでもキムヤンちゃんは、おばあちゃんと一緒なので幸せです。おばあちゃんの体調が悪いときは、1 人で畑仕事をして、懸命に支えます。そんなキムヤンちゃんのことを、おばあちゃんも、心から愛しています。しかし、いつかこの暮らしに終わりがくることをおばあちゃんはわかっています。そのことを思い、涙があふれます。「私の身体は弱っています。私が死んだら、あの子はひとりぼっちになってしまう。幸せにしてあげたかった」

「想い」をつなげる。未来が変わる。

「子どもを幸せにしてあげたい」という家族の想いに立ちはだかる、貧困という壁。ワールド・ビジョンは、貧困という壁を乗り越え、チャイルド・スポンサーの皆さまの「子どもを想う力」を大切にお預かりし、子どもたちに支援や手紙という形で届けています。一人ひとりの「子どもを想う力」をつなげることで、未来は変わっていきます。

絶対にあきらめないでほしい

支援事業部
開発事業第２課 課長
佐々木 貴代

チャイルド・スポンサーシップの全支援地域の事業を管理する課の責任者を務めています。
私は、すべての子どもたちに、あきらめないでほしいと願っています。必ずチャンスがあるからです。子どもたちを取り巻く大人の気持ちが、子どもに向くことが重要です。「子どもが持っている可能性を伸ばそう」そのように大人が思うことで、子どもが育つ環境は大きく変わると思います。私にとって、支援地域にいる子どもたちは、全然知らない他人の子どもではありません。自分の子どものように、会えたことが嬉しいですし、その喜びは、相手にも必ず伝えるようにしています。子どもたちが夢をあきらめなくてすむように、これからも支援の成果が続くことを目指して事業を押し進めていきます。

文字では表しきれません

ワールド・ビジョン・カンボジア
コミュニケーションスタッフ
チア・チャン タニー

私の仕事は、定期的に子どもたちや家族を訪問し、現状やこれまでの苦難、そして、支援によってどのような成果・変化があったかの話（ストーリー）を聞き、世界中のパートナーに伝えることです。子どもから聞いたことを文字に起こす際、意識していることがあります。それは、話し手の表情を思い出しながら書く、ということです。貧しくて脆弱な子どもたちの毎日がいかに大変かは文字では表しきれず、書きながら泣いてしまうことも多々あります。
一方で、支援が子どもたちの健やかな成長につながっている成果のストーリーを聞くと、とても嬉しくなります。これからも全力を尽くして、支援をしてくださる方にストーリーを伝え続けます。

ありがとう

チャイルド・スポンサー
武長 千裕さん

チャイルド・スポンサーになって１番強く感じていることは、カンボジアとの心の距離が縮まったことです。お手紙のやりとりもとても楽しく、生活が潤ったような気がします。チャニちゃんから届くお手紙の字や絵がどんどん成長していて、わが子のことのように喜んでいます。私は、留学生受け入れに関わる仕事をしているので、チャニちゃんも、将来、日本に留学する機会があるといいなぁと、密かに願っています。これからも、「私のチャイルドでいてくれてありがとう」という気持ちを込めて、手紙を送ります。

ワールド・ビジョン・ジャパンは、さらに多くの子どもたちを救うため、「子どもを想う力」クリスマスキャンペーンを実施します。詳しくは本誌の裏表紙（P12）をご覧の上、ぜひご参加ください !!

“何もかも”はできなくとも、“何か”はきっとできる

給食支援を実施した益城町の小学校にて

熊本地震
活動レポート

皆さまの募金が、16,400人を笑顔に

4月14日に発生した熊本地震は、九州各地に甚大な被害をもたらしました。今も、困難な状況の中で暮らす方々が大勢います。ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）は、地震発生 3 日後に現地入りし、被災者のニーズに沿うこと、行政の手が届かないニーズに対応すること、子どもに寄り添うことを目指して活動。9 月 30 日までの活動期間中に、のべ約16,400人に支援を届けました。その内容を、3つの支援の柱に沿ってご報告します。

1 物資支援

4月17日、被害が最も大きかった地域の一つである益城町に入った WVJ は、総合体育館に避難していた約 1,200 人に、飲料や衛生用品、紙食器等を届けました。これを皮切りに、続々と寄せられるニーズに応えるべく、毛布、バスタオル、高齢者用長ズボン等を、熊本市や益城町の避難所を中心に配布。5月後半からは、暑さをやわらげるクールタオルや、避難所の生活環境を改善するマットレスを支援し、物資支援全体では、のべ 4,636 人に物資を届けました。

4月17日の物資配布の様子

2 子ども支援

心のケアと遊び場運営

益城町総合体育館の避難所運営を委託された熊本 YMCA とともに、子どもたちが自由に集い、安心して遊べる屋内の「プレイルーム」と屋外の「プレイパーク」を共同運営しました。期間中、のべ 2,330 人の子どもたちが利用しました。また、災害により心理的ストレスを抱えた子どもへの接し方（心理的応急処置：Psychological First Aid）について、WVJ の専門スタッフが講師となり研修を実施。知見を地元の関係者に継承しました。

プレイルームでスタッフと遊ぶ子どもたち

調理器具を支援した保育所では、温かい昼食が出せるようになりました

学校再開支援

給食センターが被災した益城町では、全公立小中学校に対して給食支援を実施しました。子どもたちに少しでも栄養価の高い食事を届け、給食を楽しみにしてもらえるよう、給食費用の一部を支援しました。また、体育館での授業を余儀なくされた中学校へはパーティション（間仕切り）、余震への備えが不足していた保育所への防災備品、音楽活動が盛んな学校へは楽器等、教育現場のニーズにきめ細やかに対応。熊本市、益城町、西原村で、9,009人に支援を届けました。

3 教会を通じた支援

キリスト教精神に基づいて活動する団体として、キリスト教会と連携した活動を実施しました。被災地域と教会を支援するために設立された九州キリスト災害支援センターの協力団体として、活動拠点に東日本大震災の復興支援経験をもつスタッフを派遣。病院での炊き出しや、こどもの日イベントの運営等をサポートしました。夏休みには、親子バスツアーを実施し、約 400 人の方々に楽しんでいただきました。

こどもの日イベントには、60 人以上の子どもたちが集まりました

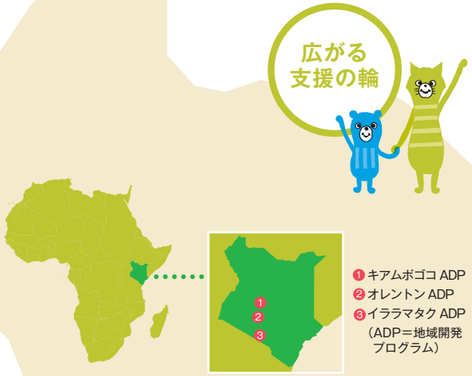
今西浩明　支援事業部部長

災害発生直後はいつもそうですが、被災された方々が混乱している中で、WVJ のような外部の人間にやらせてもらえることは何かを探ることは、とても大変です。しかし、東日本大震災の経験を生かして今回 WVJ が行った支援は、本当に必要な人や場所に届けられたと思っています。今回の支援活動を通じて新たな学びもありましたので、その教訓を今後に活かしていきます。熊本や大分はまだ大変な状況ですので、引き続き状況を見守っていきます。

支援地域のことをもっと知りたい！

ケニアの支援と暮らし

現在ワールド･ビジョン･ジャパン（WVJ）では、21 カ国、46 の地域で暮らす子どもたちに、チャイルド・スポンサーシップ・プログラムを通して支援を届けています。「チャイルドが住んでいる地域について知りたい！」という支援者の皆さまからの声にお答えし、今回はケニアの 3 カ所の支援地域のうち、オレントン地域、イララマタク地域をご紹介します。



アフリカ大陸の東に位置し、南東部はインド洋に面しています。国土は日本の 1.5 倍ほどの広さで、40 以上の民族が暮らしています。旧イギリス植民地で、公用語はスワヒリ語と英語です。

KENYA

ケニアの課題と支援

教育

支援によって建設された校舎

課題

オレントン・イララマタク両地域では、保護者自身も学校に通ったことのない場合が多く、教育の重要性への理解が進んでいません。広大な土地に人々が散らばって暮らしており、学校も少ないため、最寄の学校が 10km 以上離れていることも珍しくありません。

支援

WVJ では、地域住民に対して教育の重要性を訴える活動を地道に続けるとともに、小学校の校舎や寄宿舎、教師のための住居の建設を進めてきました。プログラム開始時は学校に通っていない子どもが数多くいましたが、支援の成果があり、小学校に入学する生徒の数が年々増えています。

学校が遠すぎて通えない子どもも多いため、寄宿舎の建設も重要です

手洗いの習慣も普及してきました

保健・衛生環境

課題

両地域には、診療所やトイレ、安全な水を得るための給水設備など、人々が健康に過ごすための基本的なインフラが整っていません。

支援

診療所の建設やトイレ・水タンクの設置を進めるとともに、妊産婦に対して産前健診や母乳育児の重要性を伝えたり、母親に対して栄養バランスの取れた食事の作り方や子どもの下痢への対処法を教えたりしています。地域で活動する保健ボランティアの育成にも力を入れています。

野外での巡回診療の様子

マサイ族の暮らし

オレントン・イララマタク両地域で暮らす人々のほとんどはマサイ族です。マサイ族はケニア南部とタンザニア北部に住む民族で、独自の言語と文化を持っています。両地域の多くのチャイルドは、このマサイ族の文化の中で暮らしています。

1 遊牧生活

マサイ族は伝統的に放牧で生計を立てて来ました。近年、政府による定住化政策が進められており、2017 年にプログラムの終了を迎えるオレントン地域では、すでに定住して農耕を営んでいる家族も多くいます。しかし、いまだに牧草を求めて遊牧生活を送っている家族も少なくありません。イララマタク地域では、時々国境を越えてタンザニアまで放牧に行ってしまう家族もいます。

家畜は貴重な財産。放牧は男性の仕事とされています

2 手作りの家

マサイ族の伝統的な結婚の形は一夫多妻制。今でも複数の妻を持つ男性が少なくありません。家庭では、家畜の放牧以外のほぼすべての労働は女性が担うものとされています。驚くのは、家の建設や維持管理も女性の仕事だということ。牛糞と泥をこねて家を建て、雨漏りの修理をするのも女性の仕事です。

家の建設、子育て、水汲み、炊事、洗濯などを一手に担う女性たち

支援によって、ソーラーライトを提供してもらい、夜でも勉強できるようになりました

リラシュちゃん（14 歳）。母親が家を改修し、勉強部屋（1.5 畳くらいの個室）を作ってくれました

3 きらびやかな装飾

赤を基調としたカラフルな布を身にまとい、手作りのビーズアクセサリーで身を飾るのがマサイ族の女性のスタイルです。男性は主に赤のチェック柄の布を羽織り、長い棒を手にしています。

耳たぶに大きな穴を開けてアクセサリーを身につけます。前歯を抜く習慣もあります

この記事を書いたのは、どんな人？

石坂 明日香
スポンサーサービス課

ケニア出張に出発する前に、3 番目の子ども（6 歳）が真剣に「ママがアフリカでライオンに食べられないように」と祈って送り出してくれました。幸いライオンに襲われるようなことはありませんでしたが、野生のキリン、シマウマ、ダチョウを見かけました！

南スーダンの子どもたちへの食糧支援

支援で生まれる子どもの笑顔

ワールド・ビジョン・ジャパンは、内戦が続く南スーダンで、5 カ月から 5 歳までの子どもたちに、通常の食糧配布に加えて、栄養補助食の配布を行いました。その結果、北バハル・アル・ガザール州の支援センターに登録された子どもたちの 96% にあたる8,985人の栄養状態を改善することができました。写真のアクエイくんは、栄養失調になり、お母さんに連れられてきた子どものひとりです。支援センターでは、お母さんたちに子どもの栄養・保健衛生に関して学ぶ機会を提供し、そのまま食べられる栄養補助食を配布しています。栄養不良の子どもたちは体力が落ちており、お母さんに食べさせてもらわないと食事をすることができません。
そのため、栄養補助食を受け取ったお母さんには、それを兄弟などへ分け与えたりせず、その子に食べさせてあげるよう指導するとともに、2 週間毎にセンターに通うように指導しています。

お母さんに支援センターに連れられてきたアクエイくん。
計測のために左腕に巻かれたテープは、栄養不良であることを示しています

長引く紛争により追い詰められる子どもたち

南スーダンは、40 年以上も続いた内戦の後、2011 年に独立した世界で一番新しい国です。ところが、政府と反政府勢力の間の対立が絶えず、2013 年 12 月残念ながら紛争が再発し、内戦状態に陥り、これまでに 230 万人が難民、避難民となっています。また、内戦の影響で極度の食糧危機が発生し、480 万人以上が急性栄養不良に陥り、治療を受けている子どもの数は年々増加しています。

このクリスマスに、「水と食糧のための募金」にご協力いただくと、過酷な状況で生きる子どもたちの命をつなぐことができます。ぜひ、ご協力ください。

ワールド・ビジョン　水と食糧のため

アクエイくんは、支援により栄養状態が改善し、元気な笑顔を取り戻すことができました

クッキーで子どもたちに笑顔を届けたい！
―中高生によるサンタ大作戦―

「少しでも気軽に国際協力に参加できれば」

そんな想いから生まれた「サンタ大作戦」は今年で 19 回目を迎えます。毎年、埼玉県の春日部共栄中学高等学校のインターアクト部（※）が中心となり、クリスマスの時期にクッキーを作って学内で販売し、その売上げを募金してくださっています。クッキー作りは土日の活動。調理室に集まった 50 名が 1,000 セットのクッキーを作ります。クッキー販売当日は、吹奏楽部がクリスマスソングを演奏し「クッキーを買って途上国の子どもたちを支援しよう」という想いを盛り上げます。昨年は、全校生徒 2,000 名の多くが列を作り、わずか 10 分でクッキーが完売。募金額は 13 万円を超えました。「クッキー作りや当日の売り子にはのべ 100 名以上が参加しています。この取り組みの主役は、生徒たちです」と、インターアクト部顧問の大澤先生は語ります。最近では中学生の参加も増えてきたそうです。中高生の「子どもを想う力」が日本全国のほかの学校にも広がっていくことを願っています。

※インターアクト部：ロータリークラブの取り組みの一環として 12 ～ 18 歳を対象に交流や奉仕活動を楽しみながら社会問題について学び、国際感覚を身につける活動。

サンタの帽子をかぶって協力を呼びかけるのがインターアクト部のメンバー。
クッキーを買って途上国支援に協力する生徒の皆さんが長蛇の列を作ります

INFORMATION

WV カフェに参加してみませんか？

「チャイルド・スポンサー同士で話せるのが楽しい」と好評のイベント「ワールド･ビジョン・カフェ（WV カフェ）」を全国各地で開催しています。支援地域の子どもたちの様子や活動状況を写真や動画を交えて報告します。開催終了後には、希望者で「オフ会（懇親会）」を開催します。ご家族ご友人をお誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。参加費無料です。参加ご希望の方は事前にホームページ、E メール、お電話にてお申込みください。（締切は開催日の 3 日前です）

2017年２月開催　WVカフェ in 埼玉

日時：2月24日(金)19:00～20:30
会場：ソニックシティビル６階604会議室
さいたま市大宮区桜木町 1-7-5
ソニックシティビル 6F

2016 年 7 月 WV カフェ in 神奈川
終了後のオフ会の様子

支援地訪問ツアー「地球あちこち～ベトナムを知る旅」のご案内

2017 年の 3 月に、ベトナムのチャイルドを訪問するツアーを予定しています。ムオンチャ ADP とトアンザオ ADP はともに初めての訪問です。支援地域の山岳地帯を訪ね、そこで暮らす少数民族やチャイルドに会えるまたとない機会です。詳細は決まり次第、ホームページや E メールでご案内いたします。

訪問先：
ベトナム ムオンチャ ADP（VNM -194418）
トアンザオ ADP（VNM -194438）
期間：
2017年３月11日（土）～３月18日（土）８日間
参加費：￥194,000（参加人数により変動します）
参加人数：20 名

2009年ベトナム 支援地訪問ツアーの集合写真

※参加はチャイルド・スポンサーとそのご家族に限らせていただきます
※訪問国の治安状況や感染症の影響等により、ツアーが中止となる場合があります

ミャンマーのチャイルド・スポンサーの皆さまへ

ミャンマーのチャイルドへの手紙の宛先が変わりました。今後は、以下の宛先までお送りください。

World Vision Myanmar
Sponsor Relations Department,
P.O. Box 22, Huai Khwang,
Bangkok 10327, Thailand

チャイルドへの手紙は「定形郵便サイズ」でお送りください

チャイルド・スポンサーの皆さまが送ってくださる手紙は、チャイルドにとって大きな励ましとなっています。手紙は、以下の２点の理由で「定形郵便サイズ内」* でお送りいただくようご理解ご協力をお願いしています。
*14 ～ 23.5cm×9～12cm、厚さ 1cm 以内（50g を超えると定形外の扱いになります）

① **チャイルドの笑顔のために**
特定のチャイルドに大きなプレゼントが届くと、不平等感が生じて、チャイルドが妬みの対象なってしまうことがあります

② **手紙が無事に届くために**
高い関税がかけられて、特別な処理が必要になったり、盗難にあう心配があります

お送りできないもの、定形郵便サイズを超えたものについては、ご連絡の上で、チャイルド・スポンサーがいない子どもたちのために活用させていただく場合があります。

☆手紙を届けるのは大変！☆
手紙をチャイルドに届ける様子を映した動画を、ホームページでご紹介しています。ぜひご覧ください！

ワールド・ビジョン　手紙の書き方

WVカフェのお申し込み、ツアーやチャイルドへの手紙に関するお問い合わせは
◎コンタクトセンター（支援者窓口）
TEL：03-5334-5351（平日 9:30 -17:00）　Eメール：dservice@worldvision.or.jp

ご存知でしたか、確定申告で寄付の最大約40%が!?

当団体は、東京都より「認定 NPO 法人」として認められており、皆さまからの支援金は、確定申告によって税制上の優遇措置 (*) が受けられます。確定申告に必要な 2016年計領収証は、2017年1月19日発送予定です。確実にお手元に領収証をお送りできるよう、転居された方は、12 月22日までに、電話、FAX、メールなどにてお知らせください。マイ ワールド・ビジョンのアカウントをお持ちの方は、ログインして、登録住所を確認・変更いただけます。どうぞよろしくお願いします。

* **寄付金特別控除**（税額控除：（寄付金合計額－2 千円）×40%が税額から控除できます。ただし、年間所得の 40%の寄付または所得税額の 25%が上限です）、または**寄付金控除**（所得控除：寄付金合計額－2 千円が所得から控除できます。ただし、年間所得の 40%が上限です）